

広報 くびきの

第77号

ときわ会上越支部
令和7年7月

大月の棚田(上越市牧区)

人がつながり、学びが広がる ～創造・連携・貢献の力で～



支部長 中村 英雄 (H3年度)

新しい年度が始まり、上越支部も令和7年度の活動を本格的にスタートしました。今年度は『創造・連携・貢献』の3つのキーワードを大切にしながら、支部としての活動を広げていきます。

教育現場を取り巻く環境は、日々大きく変わっています。AIやICTの進化、価値観の多様化、学校課題や地域課題の複雑化など、これまでの考え方が通用しない時代に、私たちには、柔軟な発想と行動力が求められています。「創造」とは、これまでの枠にとらわれず、仲間と語り合い、工夫を重ねながら新しい価値を創っていくことです。それが教育の広がりを支える力になります。いろいろな考え方が共存する今だからこそ、自分とは違う視点や経験に耳を傾けることが、「創造」の第一歩になります。

また、少人数の支部だからこそ生まれる“顔の見えるつながり”は、上越支部の大きな強みです。「連携」というキーワードのもと、校種や世代、立場を越え

て、お互いに学び合える関係づくりを大切にしていきます。上越という地域性の中で育まれてきた“顔の見える関係”を大切にしながら、支部ならではの温かいつながりを、今年度も深めていきたいと考えています。日々の教育活動の中で、「一人ではない」と感じられるつながりは、忙しい中でも私たちに前を向く力をくれます。安心して悩みや思いを伝え合える、そんな信頼の輪を広げていきましょう。

そして、「貢献」。自分が得た学びを誰かのために活かそうとする気持ちは、ときわ会の大切な考え方でもあります。ちょっとした声かけ、研修への参加、仲間の挑戦への応援、そうした一つ一つが支部の力となり、未来の教育へとつながっていきます。支部の仲間と関わる中で気付きや刺激を受け、自分の実践も深まっていきます。共に学び、共に創り、共に支え合う。そんな一年を、皆さんと共に歩んでいくことを楽しみにしています。